

編集後記

KKR札幌医療センター医学雑誌第7巻を無事に発行できたことを喜んでいますが、今回は種々統計、医療アウトカム等のデータをこれまでと異なり前年度のものを掲載することにした関係で発行が遅くなりました。お断りしておきます。この件では成田、囃子田両委員には大変ご苦勞をかけました。論文は吉岡、間部両先生に総説を、永倉先生には昨年の医療連携講演会での1000例突破記念講演の内容を原著として書いて頂きました。また研修医諸君のものも含めて多くの優れた投稿論文を掲載することが出来、充実した内容になったと自負しています。この6月第1巻から一緒に文字通り手探りでこの雑誌を作ってきた副委員長の深澤先生が市立札幌病院に転出されました。そろそろこの榮譽ある委員長のポストを禅譲したいと思っていた矢先でしたので大変残念です。新しい職場でのご活躍を祈念しています。最後になりますが雑誌発行に関係した全ての皆さんに深謝申し上げます。

(委員長 高橋)

医学雑誌に副委員長として第1巻から携わってまいりましたが、第7巻の完成をみる前に市立札幌病院へ転勤となり、編集委員の皆様にご迷惑をかけてしまいました。本当に申し訳ございませんでした。着任早々、市立札幌病院医誌の編集委員を命ぜられたのは皮肉なことでした。

思い出しますと、医学雑誌編集の経験のない私たちと、同じく経験の乏しい印刷屋さんが、第1巻を出すまでの編集作業の紆余曲折が、ありありとよみがえってきます。それだけに完成した時の安堵感と達成感はひとしおでした。不備なところはいっぱいありましたが、不出来な自分の子供を世間に送り出すかような不安と期待とを感じました。

雑誌名を単に「医誌」ではなく「医学雑誌」としたのは、思いつきや語呂の良し悪しではありません。思うに、医学雑誌は病院の鏡です。ずしりとした重量感のある雑誌に育っていくことを、心から期待しております。

(副委員長 深澤)

知らないうちに編集委員になっており、高橋委員長の命令で業績の編集に参加させていただきました。医局はもちろんですが、いろいろな部門からの学会発表や論文がでており、頼もしくなると同時に自分もがんばらなくては…と反省している私です。

うるさい原稿提出や校正の催促にご協力いただいた皆様、また催促のお手伝いをしてくれた医局秘書さまに心から感謝いたします。来年こそ春に発行できますように。

(横関)

編集委員

委員長：高 橋 豊
 副委員長：深 澤 雄一郎
 委員：斎 藤 俊一、築 詰 徹彦
 横 関 真由美、岩 谷 敦子
 小 西 篤子、囃子田 伊一
 大 木 久敬、浅 野 隼人

発行日	平成22年9月
発行人	高橋 豊
発行所	KKR札幌医療センター <small>〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条6丁目3番40号 TEL (011) 822-1811(代)</small>
印刷所	社会福祉法人北海道リハビリ